伝える！　つなげる！　ゴースマイル！

小宮の丘

令和７年度学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長　山北　雅史
令和８年１月８日発行
第１０号

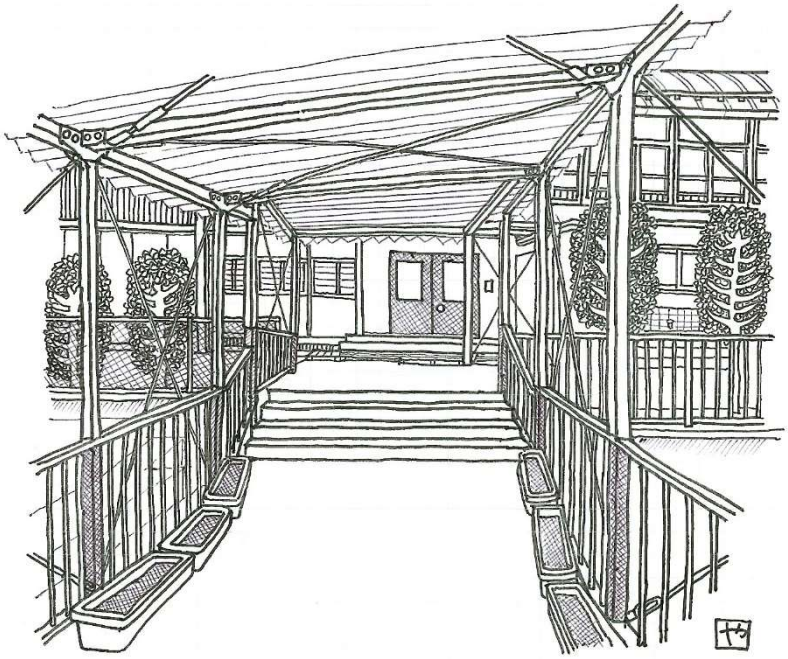
教育目標　　学校 HP：http://hachioji-school.ed.jp/komye/
○かしこい子　○たくましい子　○ゆたかな子　○みんなと仲よく生きぬく子

襷をつなぐ、思いをつなぐ

校　長　山北　雅史

今や正月の風物詩としてすっかり定着している箱根駅伝ですが、正確には関東学生陸上競技連盟が主催する「東京箱根間往復大学駅伝競走」というそうです。1920 年から始まって、戦時中の休止を挟んで今回が 102 回目とのことです。母校の名前を刻んだ一本の襷を大事につなぎながら懸命に走る選手たちの姿には、心に響くものがあります。私の出身校は出場できるような大学ではありませんが(過去に一度、学生連合チームに一人だけ参加しています)、妻の出身校は優勝経験もある伝統校なので、当然のように毎年出場しています。テレビを相手に「やったあ！」とか「悔しい！」と言いながら夢中で応援している妻を毎年うらやましい思いで見ています。世代は全く違っていても、共に同時期を過ごしたわけでもないのに、同じ学び舎で学んだことがあるというだけで、母校を愛する思いがつながることが何とも不思議です。そしてそれは大学でなくても高校でも、たとえ中学でも「同じ学校」というだけでつながることができます。八王子をこよなく愛するタレントのヒロミさんが他の八王子出身のタレントに「何中出身？」と笑顔で尋ねるシーンがよくテレビに流れます。「同じ学校」への思い、もしかしたら小学校にでも言えることかもしれません。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず・・・世の中にある人とすみかと、またかくの如し」と方丈記に記された一説が浮かびます。昨年度も学校だよりに書きましたが、学校は世代を超えていつまでも変わらなくそこにあります。でもその中で過ごす子どもたちも職員たちも毎年少しずつ入れ替わり、その学校に対する思いをそれぞれの胸に残しながら、みんないつかは必ず去っていきます。当然ですが何年かすれば、全く知らない人たちだけとなります。でも同じ校舎の中で、同じように窓からの景色を眺め、同じ旋律の校歌を歌い、同じように時を刻んでいく、それが学校です。学校は、たくさんの人がいて、それぞれの思いが交錯すれば、いつも楽しいことばかりが起こるところではありません。悔しいことも辛いことも時にはあります。でもいつかそのすべてを振り返ってみた時に、少しでもいい思い出として残り、将来も「この学校を応援してあげたいな」と思われるように今を過ごしていきたいと思うのです。この子どもたちと、この職員たちとで。



二学期の終業式の日、子どもたちが「やったあ、冬休みだ！」と笑顔で下校したあと、玄関前の坂道で卒業アルバム用の職員集合写真を撮影しました。三学期始業式の今日を入れて、今年度の登校日数はあと 50 日（５年生は 51 日）。だんだんと年度末が近づいてきます。３月 24 日、第 51 回卒業式の後、後輩に最上級生の襷をつないで卒業生がこの扉から巣立っていきます。